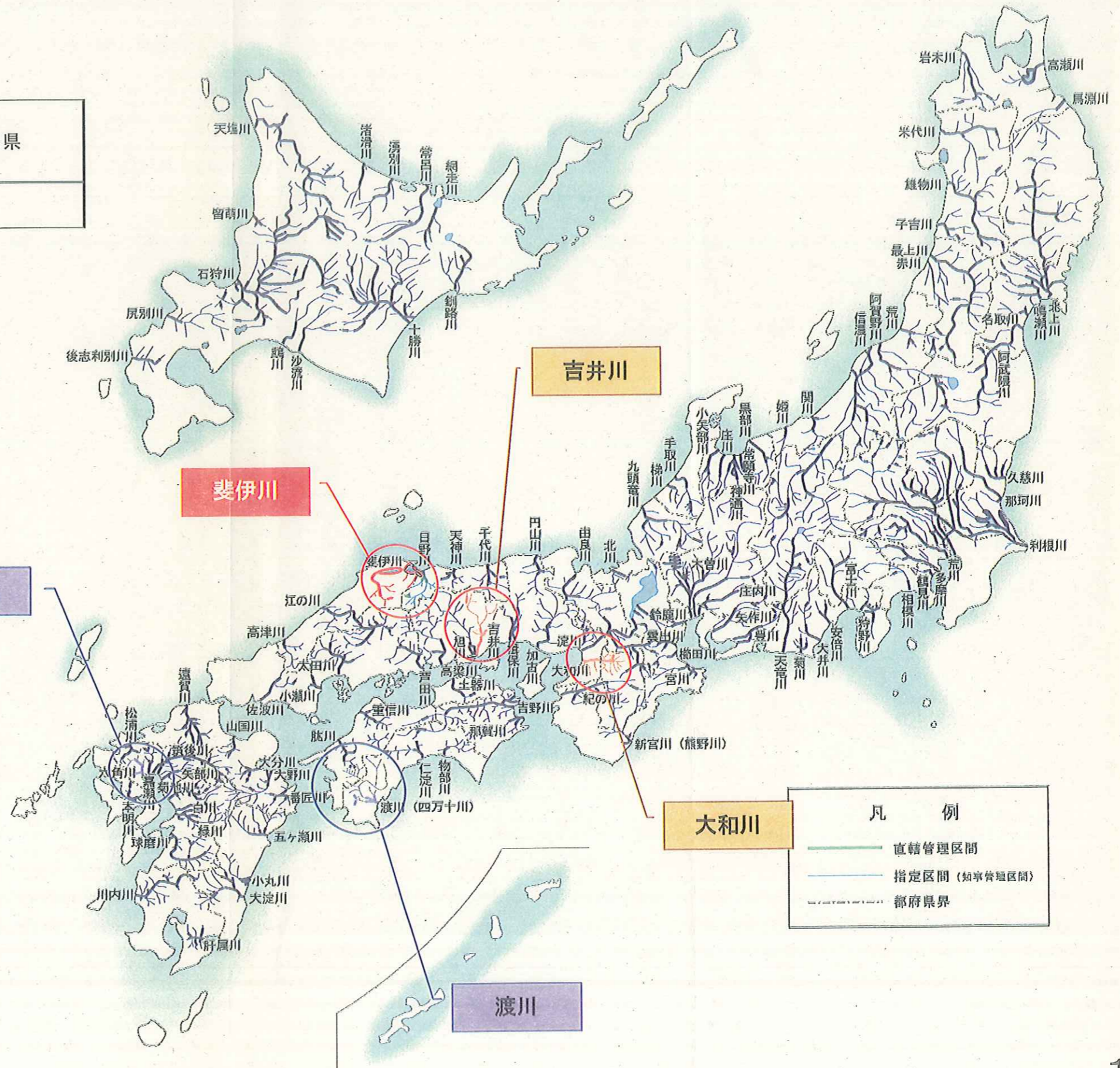




各水系の河川整備基本方針（案）の概要




資料 8

新たに基本方針検討小委員会で審議を開始する水系

水系名	流域面積 (km ²)	幹川流路延長 (km)	流域内人口 (万人)	想定氾濫区域内人口 (千人)	流域の主な県
斐伊川	2,540	153	51	228	島根県、鳥取県



	本日の河川分科会での審議水系	2水系
	基本方針検討小委員会で新たに審議を開始する水系(改訂)	1水系
	基本方針検討小委員会で審議中の水系	2水系
	河川整備基本方針策定済み水系(手続き中を含む)	104水系

凡 例	
	直轄管理区間
	指定区間 (知事管理区間)
	都府県界

斐伊川水系

流域及び氾濫域の諸元

流域面積(集水面積)	: 約2,540km ²
上島地点上流	: 895km ² (約35%)
幹川流路延長	: 153km
流域内人口	: 約51万人
想定氾濫区域面積	: 約240km ²
想定氾濫区域人口	: 約23万人
想定氾濫区域内資産額	: 約5兆400億円
主な市町村	: (島根) 松江市、出雲市、(鳥取) 米子市

河川整備基本方針(平成14年4月策定)

対象降雨量	: 399mm/2日 (1/150)
基本高水のピーク流量	: 5,100m ³ /s (上島地点)
計画高水流量	: 4,500m ³ /s (上島地点)

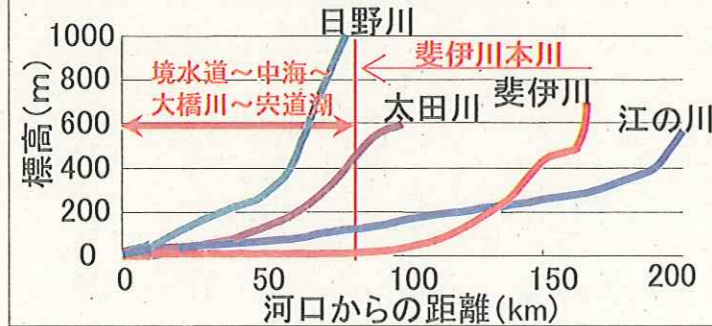
土地利用状況

■山地が約89%、農地が約9%、宅地・市街地等が2%	
■人口・資産は出雲市、松江市に集中	

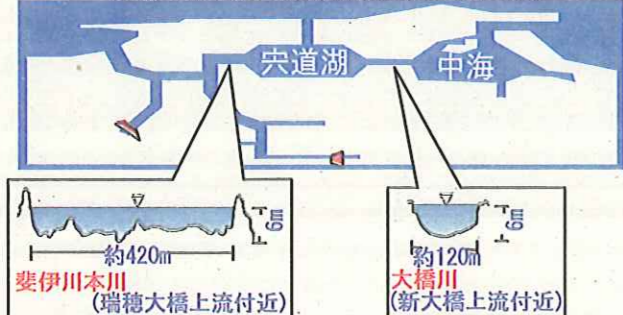
地形・河川特性及び降水量

- 斐伊川は宍道湖(汽水湖)に流入し、大橋川・中海(汽水湖)・境水道を経て、日本海に注ぐ。宍道湖から日本海までほとんど勾配を持たない
- 斐伊川本川に比べ、大橋川の流下能力は小さく、宍道湖での水位上昇に伴う水害が発生しやすい
- 年間降水量は、流域平均で1,900mmで、全国平均約1,700mmの約1.1倍。

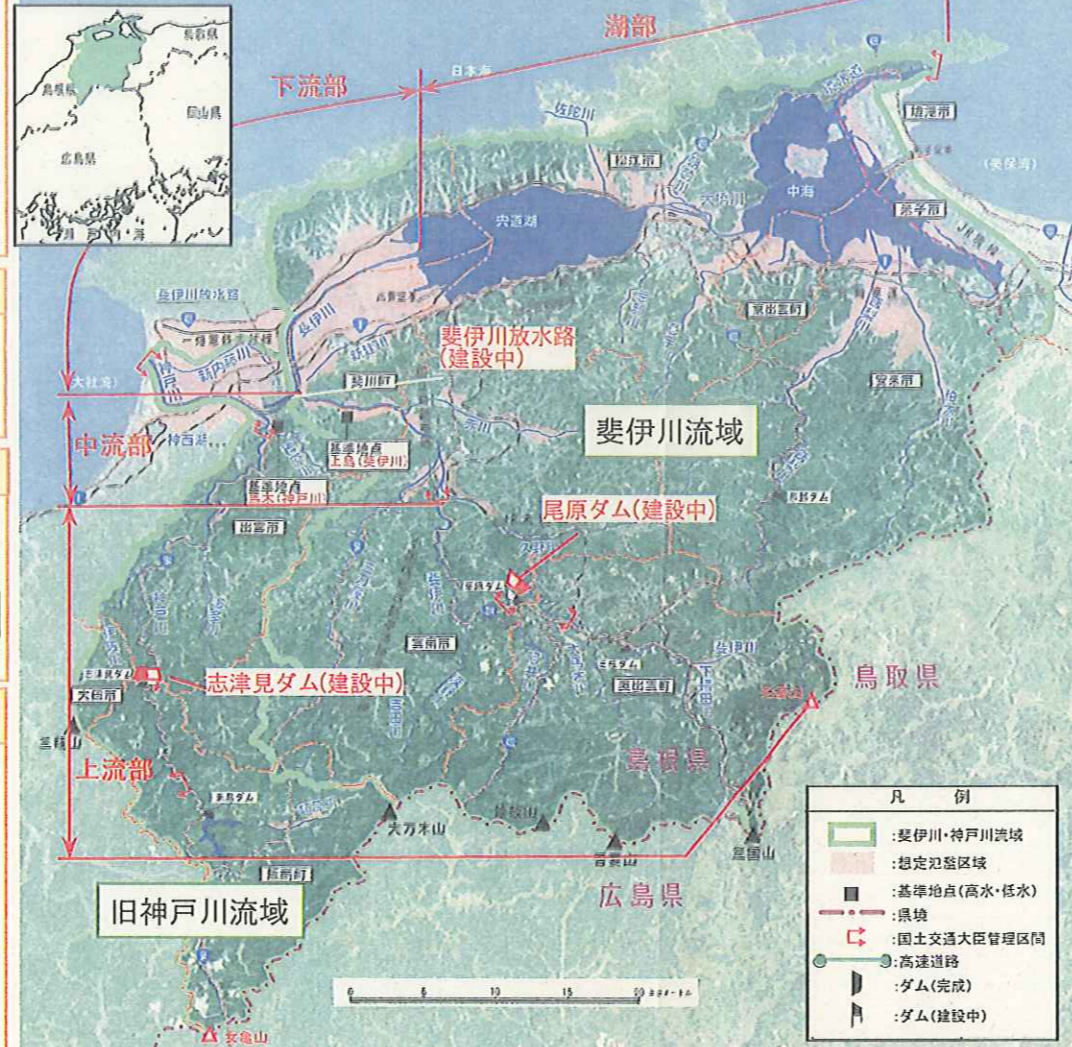
河川勾配の比較



斐伊川本川と大橋川の大きさ比較



- 松江市等の宍道湖沿岸や出雲市等の斐伊川沿川等を浸水被害から防御するため、上流部で志津見ダム・尾原ダムの整備により洪水調節を行うとともに、中流部で斐伊川から神戸川に分派する斐伊川放水路を整備し、下流部で宍道湖からの流出量を増大させるために大橋川改修を実施
- 平成14年基本方針策定後、中海本庄工区の干陸中止及び宍道湖・中海の淡水化中止が決定され、中浦水門の撤去及び森山堤防の開削により洪水時の水位が低下することとなるため、中海及び大橋川の計画高水位の見直しが必要。また、斐伊川放水路事業の進捗に伴い、神戸川水系を平成18年8月に斐伊川水系へ編入されたため、神戸川を含めた形での斐伊川水系河川整備基本方針の策定が必要



主な洪水被害

- 昭和47年7月に戦後最大洪水が発生。宍道湖が氾濫し、県都松江市を始め宍道湖沿岸を中心に約25,000戸が7~10日間にわたって浸水
- 平成18年7月にも、再度松江市を中心に約1,500戸が浸水

洪水発生日	観測流量 (m ³ /s)	被害状況				備考
		死者・行方不明者(名)	全・半壊(戸)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	
明治26年10月13日	大津 4,800	54	288	19,133		島根県全県
昭和47年7月10日	大津 2,400	13	114	8,060	18,173	斐伊川流域
平成18年7月19日	上島 2,400	3	12	371	1,259	斐伊川流域

出典: 島根県被害年報、斐伊川誌、昭和47年7月豪雨災害史、水害統計
斐伊川流域には、旧神戸川流域を含む



治水対策

- 松江市等の宍道湖沿岸や出雲市等の斐伊川沿川等を浸水被害から防御するため、上流部で志津見ダム・尾原ダムの整備により洪水調節を行うとともに、中流部で斐伊川から神戸川に分派する斐伊川放水路を整備し、下流部で宍道湖からの流出量を増大させるために大橋川改修を実施



※尾原ダムと志津見ダム及び斐伊川放水路は、平成20年代前半に完成予定

河川環境

- 斐伊川上流部
渓流にオオサンショウウオやゴギなどが生息。
- 斐伊川中流部
スナヤツメなど砂地を好む魚類やカワムツ等が生息。水際にはツルヨシ等の植生が連続的に繁茂。
- 斐伊川下流部
網状砂州が発達する砂河道。マコモやリタナゴなどが生息・生育するクリーク「鯨の尾」がある。
- 湖部(宍道湖~大橋川~中海・境水道)
潮汐や出水の影響を受けて塩分濃度が変化する連結汽水湖や大橋川ではオオクグやコアモの群落が分布。
- 神戸川
中上流部は渓谷で、オオサンショウウオなどが生息。下流部は築堤河川で、瀬淵にはアユやモクズガニ等が生息。河口部の汽水域では、ハマボウフウなどの海浜植生が生育。

社会情勢の変化(国営中海土地改良事業の変更)

- 国営中海土地改良事業
(当初) 中海に大規模干拓を行うとともに、干拓地と沿岸既耕地への農業用水の確保を目的に、中海・宍道湖を淡水化
- (中止) 社会情勢の変化により、平成17年に淡水化中止を含む変更計画が確定。これに伴い、中浦水門の撤去、森山堤防の開削等を実施

河川整備基本方針の変更①

- ・中浦水門の撤去及び森山堤防の開削により洪水時の水位が低下することとなるため、中海及び大橋川の計画高水位の見直しが必要

河川整備基本方針の変更②

- ・斐伊川放水路事業の進捗に伴い、神戸川水系を平成18年8月に斐伊川水系へ編入。このため、神戸川を含めた形での斐伊川水系河川整備基本方針の策定が必要

国営中海土地改良事業の経緯

昭和38年 4月	国営中海土地改良事業着手
昭和49年10月	中浦水門完成
昭和53年 2月	本庄工区(大海崎堤)の完成
昭和63年 7月	本庄工区(森山堤)の完成
平成17年 1月	本庄工区の干陸中止及び宍道湖・中海の淡水化中止を踏まえた変更計画等確定

